

# OSA・ネット大阪ニュース 第37号

NPO法人シルバーアドバイザー・ネット大阪

## 15周年記念特集号



伝承おもちゃづくり事業部



国際交流事業部



福祉用具普及サポート事業部



おもしろ算数教室事業部



NPO法人シルバーアドバイザー・ネット大阪

<https://sanetosaka.com/>

〒540-0006 大阪市中央区法円坂 1-1-35 大阪市教育会館  
(アネックスパル法円坂)内認定 NPO 法人大阪府高齢者大学校内

TEL : 06-6360-4565 FAX : 06-6360-4410

## 目 次

• 挨拶	
NPOシルバーアドバイザー・ネット大阪理事長	村松 秀明 2
• 祝辞	
認定 NPO 法人大阪府高齢者大学校理事長	和田 征士 3
NPO 法人大阪区民・大阪府民カレッジ理事長	北田 一誠
大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会理事長	新鞍 清彦 4
• 歴代理事長のあゆみ	5~6
• NPOシルバーアドバイザー・ネット大阪のあゆみ	7
• NPOシルバーアドバイザー・ネット 4 事業のあゆみ	8~12
• 15 年関連団体の声・（歴史）	13~15
• 会員かわら版 15 年会員の声	16





## ご挨拶

NPO法人シルバーアドバイザー・ネット大阪  
理事長 村松 秀明

当法人が15年を迎えるにあたって、この度、記念号を発行する事になり、関係者の皆様方にお礼と、ご挨拶を述べさせていただきます。

この法人が大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会様の中から生まれた経緯につきましては沿革のところで詳しく書かれているところですが、当時の諸先輩がこの法人に託された事が、脈々と15年継続し、引き継がれてきた事を全員でかみしめているところです。歴史を振り返り、足元を見つめて、又新しい歴史を生み出していく為に、この記念号で、歴史認識を新たにしているところです。又制作過程の中で設立当時の写真を皆でみて、関係者の若い時の、澁漉とした姿に一同15年の歳月を感じ懐かしい思いを味わいました。

この法人は、それぞれの事業部が独自の活動を行っており、取り巻く様々な団体との連携で成り立っている法人です。15周年を機に目標・ビジョンの再確認や、この法人の役割を皆で話し合っ共有できたと思っております。

伝承おもちゃづくり事業部、おもしろ算数教室事業部、国際交流事業部、それぞれが、これからの活動目標を明確にさせる事ができました。特にコロナ禍の中での活動形態としてオンラインでの活動も国際交流事業部が始めておりますが、それぞれの事業部間の情報交換にも取り入れていっております。15周年が一つの転機である事は、コロナの状況や様々な要因も重なり、まぎれもない現実です。そういった意味でも、今まで以上に関係各位のご指導とご鞭撻を頂けますようこの場を借りてお願い申し上げます。



事業活動現場

## 祝 辞

認定 NPO 法人大阪府高齢者大学校

理事長 和田 征士



SA ネット大阪の設立 15 周年を心よりお祝い申し上げます。

15 年の長きにわたり大阪府民のために社会貢献活動を遂行されてきたことに対し、感謝するとともに敬意を表します。

現在実施されている子どものための「伝承おもちゃづくり」、脳の活性化、思考力の育成に役立つ「おもしろ算数教室」さらに外国人留学生の活動支援、国際サロンの開催に繋がる「国際交流」は現代と将来を見据えたものであり、今後の活躍を期待できます。今年から実施されている子ども事業養成者講座も期待大です。コーダイ内でも子ども向けは関心が高く、コーダイで実施している子ども事業部会議にも参加して頂いてお互い協力し合っ

て推進していきましょう。国際交流は大いに拡大の余地があります。少子化に伴う人口減少は避けようがありません。海外特に東南アジア諸国の留学生の交流を進めさらに就活にも一歩進めたら大きな飛躍に繋がるのではないのでしょうか。(株) helte が主催していて sail を活用して若い東南アジア人の紹介・就活にも道が開けていくと思います。コーダイにおいては各クラスで「なにわの宮会一理事長と話そう」を通じで sail の PR をしています。日本語を話せる若い外国人に高齢者が先生になって日本の伝統・文化・自然・歴史等を教えていくものです。日本で働きたいと思っている人は多いです。この活動はその一助となれます。留学生とのサロン・交流会も外国の人たちには大助かりになると思います。コーダイとコラボしながら推進できたらと思います。SA ネット大阪の皆さん 15 周年を機に飛躍のチャンスをもものにしてください。

NPO 法人大阪区民カレッジ・大阪府民カレッジ

理事長 北田 一誠



NPO 法人 SA・ネット大阪の 15 年にわたる活動に敬意を表するとともに、今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

少子超高齢化社会、グローバル化社会を迎えて、私たちが行政や地域の諸団体と協同して地域を支える担い手としてより活動することが求められています。現在、大阪区民カレッジは平成 25 年に 3 校でスタートして以来、市内 7 校、また、大阪府民カレッジは府下に 10 校、地域密着型カレッジは計 17 校に拡大しております。また両カレッジは大阪府より「シルバーアドバイザー (SA)」養成講座と認定されており、約 700 名の受講生が地域の学習、仲間づくりそして社会参加活動を実践しています。両カレッジは講師、運営者、受講生の 3 者 3 様のボランティア活動にて成り立っております

ボランティアとは「共にあゆむもの」「あなたの想いを活動に」私たちの健康づくり、生きがいつくりであります。このように多くの方々が集っているのは、設立以来、志を同じくする貴 NPO 法人はじめ皆様方からのご支援ご協力の賜物と感謝しております

カレッジ修了生はシルバーアドバイザーとして永年培われてきた知恵、経験その豊かさを活かして貴団体はじめ地域で活動されております。

今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染症で緊張した日々を送っていますが、ワクチンや治療薬ができるまで、折り合いをつけていかねばなりません。今こそ、仲間とのつながり、お互いに分かり合え、支え合っていくことが大切になっています。「多文化共生社会」をめざして、お互いに連絡を密にしてこの事態を乗り切りたいと願っています。





大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会  
理事長 新鞍 清彦

15周年を迎えられた、SAネット大阪に期待

この度15周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。貴会の当初のNPO設立の動機は、大阪府が管理する茨木市での介護用品の説明要員養成及びその人員の派遣と聞いておりました。永らく介護用器具普及と介護に関する人材サポート事業は本当に大変なご苦労だったことと思います。その後は

- 1、伝承おもちゃづくり事業
- 2、おもしろ算数教室事業
- 3、日本語教育支援など国際交流関連事業
- 4、子どもおもちゃ教室事業

など多岐にわたる事業されていると聞いております。特に最近子どもおもちゃ教室を立ち上げられ、多くのオモチャの指導者の養成に力を入れられているとの事、子どもの健全育成を図るには、ものづくりからのアプローチが大変良いように思います。引き続き多くの指導者の養成に努力していただけるようご期待いたします。今後ますます高齢化社会になる中、会員の皆様にはくれぐれも健康に注意されご活躍頂きますようお願いいたします。



### 歴代理事長のあゆみ

平成16年からNPO法人設立について準備を開始、平成18年4月の大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会の理事会で承認され、設立総会を開催。5月に大阪府に申請し、9月にNPO法人として認証されました。

**初代理事長 久保 昌之 (故)**

**第1期** 平成18年9月11日～平成19年3月31日

SA連協で検討の結果、下記の事業を引き継ぐことになりました。福祉用具普及サポート事業（大阪府立介護情報センター説明業務、財団法人大阪府地域福祉推進財団からSA連絡協議会への委託事業を法人設立に伴い当法人が引き継ぐ）。伝承おもちゃづくり府民塾事業（C・B Sunday 手づくりおもちゃ教室シルバーアドバイザー・ハートケアボランティア（茨木）9月末日移管。おもしろ算数教室事業（18年12月末で会計移管）、起業家ファンド助成金事業を開始。平成18年10月10日設立記念行事開催、「シニアNPO法人の可能性について」講演会を開催。国際交流委員会は平成18年5月15日設立総会を開催（12月末で会計は連協より移管。）

**第2期** 平成19年4月1日～平成20年3月31日

広報部設置、会報誌SAネット大阪ニュースを発行し、ホームページを開設。国際交流

事業、介護情報研修事業、おもちゃづくり事業、おもしろ算数教室事業、シニアのための起業家ファンド助成事業開始。NPO 会計導入。

## 二代理事長 永田 得祐

**第3期** 平成20年4月1日～平成21年3月31日

平成20年7月大阪府議会で高大廃止が決定。高大はNPOを申請。  
平成21年4月から高大の第一期がスタート。会報誌SA ネット大阪ニュース年3回発行

**第4期** 平成21年4月1日～平成22年3月31日

「アクティブシニアフェア2009」に参加。「世界を、日本を自転車で走破」  
講演会を開催。会報誌SA ネット大阪ニュース年3回発行。

**第5期** 平成22年4月1日～平成23年3月31日

SA ネット大阪ニュース3回発行。大阪府介護情報・研修センターが本年3月で閉鎖の為活動を修了。



## 三代理事長 三田 進一

第3代 理事長 三田進一

**第6期** 平成23年4月1日～平成24年3月31日

- ・6月講演会「万能の天才 ゲーテに学ぶ」開催。
- ・8月、国際障害者交流センター（通称：ビッグ・アイ）にて福祉用具説明員活動開始。
- ・翌年2月、「アクティブシニアフェア」出展

**第7期** 平成24年4月1日～平成25年3月31日

- ・6月総会にて、定款中「従たる事務所」設置を廃止、及び「NPO 改正に伴う定款変更」を議決。登記。
- ・6月講演会「原発事故とエネルギー事情」開催。
- ・10月「介護体験研修講座」実施。
- ・大阪区民カレッジ設立、役員として参画。

**第8期** 平成25年4月1日～平成26年3月31日

- ・「ビッグ・アイ」での福祉用具説明員活動、今年度末にて委託事業終了。

**第9期** 平成26年4月1日～平成27年3月31日

- ・6月講演会「戦国時代をロマンに生きた黒田官兵衛」開催。
- ・9月～翌年2月、講演会「認知症予防講座」（キリン福祉財団より助成）4回開催。
- ・翌年3月「アクティブシニアフェスタ2014」出展。

NPO 法人の設立後5年を経過し、それぞれの事業活動も円熟期に入り極めて活発に展開されました。ただ、4事業の内、「介護用具説明員サポート事業」は、大阪府の行政改革により、同26年3月末を以て展示廃止となり説明員活動も中止することになり残念でしたが、奥谷副理事長等のご努力下、「認知症予防講座」の開催等を企画・実施でき好評でした。

関連団体関係では、大阪府が主宰していた「大阪府高齢者大学」講座が廃止。代わりに受講希望者の受皿として「NPO 法人大阪府高齢者大学校」(通称高大→コーダイ)が設立。同 24 年度より受講生募集開始。また、大阪府が主宰していた「大阪アクティブシニア機構」を市民主宰の事業・組織にする要請を受けて、同 23 年 5 月「NPO 法人大阪アクティブシニア協会」(通称 OASK)を設立。「コーダイ」「OASK」にも役員として参画、事業活動等にも協力し、併せて協働して活動することになり、今日に至っています。

同 27 年 6 月 6 日、通常総会で辞任し、永年補佐して頂いた武内信憲副理事長兼事務局長に後事を託しました。国際交流活動にも活発で視野の広い経験豊富な方ですので、新しい視点で発展させていただけると確信していました。

2 期 4 年に亘って無事努められたことは、関係者の皆様のご協力のお陰だと感謝しております。改めてこの機会に支えて戴いた関係者の方々に深くお礼申し上げます。



#### 四代理事長 武内 信憲

**第 10 期** 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

「戦火の子どもたちに学んだこと」シリアの講演会を開催。「手づくりおもちゃ教室」奇数月開催。おもしろ算数教室事業部が会場を八尾市生涯学習センターに移して講座を引き続き初級・中級・上級・サポーター養成講座を開催、国際交流サロンも順調に推移。主たる事務所を大阪府高齢者大学校の事務所内に定款変更して登記完了。関連団体との関係も密接になる。「おもちゃづくり教室」は SA 講座修了者限定から一般募集に広げる。会報誌 SA ネット大阪(年 2 回発行)に会員の活動紹介「かわら版」を開設。

**第 11 期** 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

高大タイアップ「子ども英会話教室」実施。高大に Concierge が発足し、各クラスで SA ネット入会促進の PR。高大関連団体との各種の活動参加。

「明治維新と新政府の成立」講演会を開催。おもちゃ事業部が助成金獲得。会報誌 SA ネット大阪ニュース年 3 回発行。

**第 12 期** 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

高大関連団体の各種事業に参加と団体の PR。「第 1 回フレイル予防講座～気付きと予防で健康寿命を延ばしましょう～」講演会開催。「大きな声出して楽しく歌おう会」講演会を開催。会報誌 SA ネット大阪ニュース年 3 回発行

**第 13 期** 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

高大 10 周年各種行事に参加と活動 PR を実施。「第 2 回目のフレイル予防講座～」講演会開催。大学と連携して留学生の就職支援活動と留学生との交流活動を実施。会報誌 SA ネット大阪ニュース年 3 回発行

## 1、設立背景と経過

平成16年1月、「SA連協」（シルバーアドバイザー連絡協議会の略）内で「NPO法人化の課題について勉強会を開催。同年9月、設立準備委員会起ち上げ、同年10月、太田大阪府知事宛、SA講座、老人大学講座の存続、NPO法人化提言書を提出されました。当初はSA連協全体の法人化を模索しましたが、SA連協の会則、組織の変更に時間を要することから断念し、NPO化の趣旨に賛同する有志で設立準備委員会（以下委員会と略）立ち上げました。

委員会は事業目的と事業の種類と内容等を検討し、約2年の準備期間をかけ構想を固めました。この間、「官から民への流れ」に乗り、同17年度から大阪府地域福祉推進財団（以下推進財団と略）から茨木市の介護情報センターの説明事業を受託し取り組みを開始しました。後に「大阪府立介護情報・研修センター福祉用具説明員サポート事業部」（略して介護福祉事業部と称しました）（後年、事業部名を介護福祉事業部）と改称しました。更に3つの自主事業を立ち上げ、同年3月理事会で「シルバーアドバイザー・ネット大阪」（以下SAネット大阪と略）の法人設立申請の承認を受けました。

同18年9月1日、大阪府から認証決定を受け法人登記手続き完了しました。

NPO委員会活動として先行して活動してきた「おもしろ算数教室事業」「国際交流委員会の事業活動」、CB委員会として活動してきた「伝承おもちゃづくり事業」をSA連協から移管を受けました。

定款に記載された目的欄には、「大阪府下の元気な高齢者が長年培ってきた豊富な社会経験・知識・技能を活かして多様な地域福祉活動や子どもの健全育成、安全で住み易いまちづくり活動を通じて豊かで生きがいのある生活と支えあう地域社会を目指します。又、市民・企業・行政との協働により、高齢者の就業支援を促進し豊かな高齢化社会に寄与すること」と書かれています。

初代理事長 久保昌之氏（元SA連協理事長）、理事：11名。会員数：正会員：48名、賛助会員：45名でスタートしました。

## 2、その後の活動

上記4事業部の内、介護福祉事業部は、大阪府の行政改革により、平成26年3月31日を以て展示場の閉鎖と共に活動を中止し、以後活動の場がなく、事実上事業部として存続できなくなりました。

しかし、「福祉」に関する思いは強く、同26年9月から翌27年2月にかけて、当時注目され始めた「認知症」に着目し、講演会と軽い運動を組み合わせたプログラムで「認知症予防講座」として4回に亘り開催し、多くの来場者に喜ばれました。

また、後年「フレイル予防講座」も開催する等問題意識を以て活動しています。

他の事業部は、それぞれに特色を生かして、府下一円に行動範囲を広げ、幼少者、シニア、来日留学生等年齢、国籍、性別の区別なく幅広い層を対象に活動を続け今日に至っています。また、活動当初より事業活動は、「SA連協」と連携を保ち活動の相乗効果を発揮できるよう努めています。



## 各事業部の沿革

### ①福祉用具普及サポート事業

(西川 龍夫)

「(財)大阪府立介護情報・研修センター」からの委託事業「福祉用具説明員」の募集があり、国際交流の修了生であったが、参加募集に応じました。当センターからの委託当初の名称は「(財)大阪府立介護実習・普及センター」であり、その後上記に改称された。

家庭での介護に必要な知識・技術や便利な福祉機器を広く普及するとともに、介護の問題を自分の問題として考え、ボランティア活動への参加など地域福祉を推進するために、茨木保健所、茨木市大住町、の5階建ビルのワンフロア全体を占有して設置された

当センターへの来館者に対する受付業務と福祉用具の説明業務を、月曜日(休館日)を除く毎日の10～16時まで実施した。受託収入は年間60万円あり、それを説明員には活動費として参加日数に応じて当月末に支払いがされた。(小生は、この会計業務も兼務しました)

説明員登録者は、55名(平成20年4月)で、毎日2名がセンターの受付業務を担当した。「団体での来館者」には、別途来館者数に応じて2～3名が対応して、10名単位にグループ単位に分けて説明を実施し、説明員の説明が良く聞きとれるように配慮した

当センターには、「電動車椅子・電動ベッド・ポータブルトイレ・シャワーチェア・杖・手すり・移動用リフト類・介護用食器の箸やスプーン類・階段昇降機・床ずれ防止用品・等々の約1,000点の展示」があり、また具体的に提案したモデルルームもあり、それらの説明及び使用・操作方法を体験してもらった。

福祉用具・介護用品の研修で、大学・高校・看護医療福祉専門学校の学生・各地区の福祉委員や老人会等の各種団体研修にも対応して説明を同様に実施したが、平成22年4月～23年3月の2年間累計では、65団体の来館があった。その内で、韓国からも団体での見学があったことが印象として残っている。以上が主な参加活動の内容です。

(三田 進一)

福祉用具説明員サポートボランティアは、平成28年8月より国際障害者交流センター(通称、ビッグ・アイ)(堺市南区茶山台1丁目)内の、バリアフリープラザに福祉用具展示会場が移された時点で活動が再開されました。

同年6月、委託団体「ビッグ・アイ共同機構」との契約締結。7月説明員募集、研修会実施を経て8月より活動を開始しました。

応募者は延30余人に及び、堺市始め近隣市町村からも登録され、開館日には交互に詰め説明に当たりました。

説明は介護用品にとどまらず、館内のパソコンの立ち上げ、図書貸し出し、所内の設備の障害者仕様の説明など広範囲に及びましたが、それぞれ適切な説明・対応で関係者の要望に応え信頼を得ました。

委託者「ビッグ・アイ機構」の都合により、平成26年3月末をもって展示会場を閉鎖されたので、説明員活動も中止の止むなきに至り以降「介護用品説明員サポート事業」は事実上活動することは出来ませんでした。

しかし、平成 17 年より 10 余年に亘って活動したことは、広範囲の地域の市民の方々に介護用品の理解を深め、後日介護するにあたって適切な対応をされたであろうと思うと同時に、説明員各自が介護用品の説明経験を基に、それぞれの地域でその後の福祉活動に、少なからず役立ったのではないかと考えています。

## ②伝承おもちゃづくり事業部

三田 進一

「伝承おもちゃづくり事業部」の源流は、前身である「シルバーアドバイザー連絡協議会（以下 SA 連協と略）時の C B 委員会です。「C B」とは Community Business の略で、平成 16 年当時、全国的に展開されていた「ボランティア精神は堅持しながら、活動領域によっては一定の事業性を確保することで継続的に活動ができる」グループ、団体が名乗りを上げ NPO 化し、大阪府も積極的に助成。C B 委員会も世代間交流事業の一環として組成、助成を受けました。委員は大阪府主宰の「シルバーアドバイザー養成講座、世代間交流コース」修了生から、各地域のリーダー達が集まり委員として企画・運営を諮りました。その第 1 弾が平成 16 年に行った「放課後児童クラブ指導員研修会」の実施でした。

市内の小学校「学童放課後児童クラブ指導員」の方々を、市内を地域別に分け 5 会場、延 7 日間に亘って「おもちゃづくり」の他、「おもしろ算数教室」「マジック」等の指導を行いました。その際毎回各地域から 20 人前後の応援・協力があり受講者への指導を扶けてもらいましたが、その時の経験が後日各地域に戻った際、地域活動に役立ったのではないかと考えられます。

それが機縁となって「おもちゃ教室」が開催されますが断続的で、改めて定例的なものとして平成 17 年 3 月より「おもちゃづくり教室」をはじめ、諸先輩や有志の方々が交互に講師として、一方地域から希望者が集い NPO 法人設立後も受け継がれ、現在に至っています。隔月開催ですが既に 80 回を超え参加された方は延 2700 人を超えましたが、それらの方々は、これらの経験、知識を生かして各々地元や各地のイベントなどで活動されています。

委員たちも、府下や他府県にも「教室」「イベント」等の要請あれば参加し、活動の場を拡げました。その中で今も続けているのが、「四天王寺」内での活動です。更に平成 25 年度から開校した NPO 法人大阪区民カレッジの一部の学校の受講生にも指導を始めました。受講生が、地域内でのイベントに参加し、市民との交流に役立っています。

また、平成 19 年 3 月、おもちゃづくりのレシピを集めて「手作り伝承おもちゃ読本」冊子を 1000 冊発行。関係先、希望者に配布しました。

近年、おもちゃの内容も各自の工夫・創意で新しいスタイルのおもちゃが出てきました。「科学実験教室」や「パソコンを使ってお絵描き」などの講座も人気です。しかし、私達は、基本的には「伝承おもちゃ」が中心で、それらを次代に継承しながら、新しいスタイルのおもちゃづくりを目指していきたいと考えています。最近シニアの方々とふれあう機会もでき、幼い頃を思い出し作られる方々との交流も楽しんでいます。

### ③おもしろ算数教室事業部

二葉 登代子

高校生の「数学は嫌い」という声を受けて、熟考の上に始めたこの活動の3本柱は、「算数マジックを楽しみ謎解き」「算数パズルに挑戦」「簡単な計算に挑戦」です。この活動により「楽しみながら、小学生は考える力を、高齢者は認知症予防を」図ります。

宮本哲也氏の「無試験で受け入れ、難関中学に合格する中学受験塾」を知りここでは、算数パズルを塾生に解かせているだけとわかり「やはり、これだ」と思いました。

平成16年5月に、地元の八尾市南山本小学校にて、おもしろ算数教室を始め、その後、土曜日の子どもの活動の場「わくわくプラザ」にて実施できることとなりました。

平成16年10月10日、大阪府より依頼を受け、「日本親子の絆プロジェクト（金沢子育てサミット）」での発表。また、服部緑地での「子育て子育て応援広場」、吹田市での「ドリームネット」、大阪府立大型児童館「BIG・BAN」、大阪市立小学校での授業、フラットスペース金剛、高槻市や茨木市の小学生向けなどでの教室を実施しました。

平成17年2月24日と25日に、ファイン財団より依頼された「放課後児童クラブ指導員研修」に取り組むために、SA連協の方々に支援をお願いしました。事前研修の際に「認知症予防として、私たちにも実施して欲しい」との声があり、高齢者向けへの実施に踏み切り、「高齢者に、楽しみながら、脳を活性化し、認知症予防」を目指しました

平成17年10月13日、SA連協の理事長のご挨拶から、講座の開講式を実施しました。ここでは、初・中・上級各々1.5時間を6回受講後、サポーター養成講座に進みます。

①大阪ボランティア協会にて平成17年～平成22年：15名

②大阪社会福祉指導センターにおいて、平成26年：8名

③八尾市生涯学習センターにおいて、平成27年～令和2年12名の計35名のサポーターが誕生しました。

平成16年1月にSA連協で、NPOを立ち上げようと勉強会・準備委員会が始まりました。平成18年9月に大阪府からNPO法人として認証され、おもしろ算数教室は、このNPOの事業部としての活動に移りました。

その後、高齢者向けの活動が多くなり、特に、柏原市での「物忘れ予防サロン」では、毎月1回の実施に3枚程度の新しいパズルを作成、基礎編の算数パズルを多く作りました。また、高齢者大学校・府民カレッジひらかた校などをはじめ、各地域の公民館・地域包括支援センター・老人福祉センター等での活動機会を頂きました。令和元年には、大阪社会福祉指導センターにおいて3か月に1回、自主企画で教室を開きましたが、令和2年2月以降は、残念ながら実施できていません。

今後は、この様に一定の会場においての活動をすすめたいと、考えています。

最後に、この教室に参加なさった方の声を紹介します。

『この教室を、今まで知らなかって損をした』『錆び付いた頭の錆が取れて、すっきり』



#### ④国際交流事業部

村松 秀明

国際交流事業部の沿革を記させていただきます。私自身が当事業部の部長を拝命したのは2017年6月です。現大阪府高齢者大学校古矢理事長代行から引き継がせて頂きました。15年の歴史の中の4年の所属期間ですので、諸先輩から伝え聞いた事、記録に残っている事で沿革を記させていただきます。 ※2006年の設立以来継続している活動

##### ●国際交流サロン

当部の活動の大きな柱は「国際交流サロン」の開催です。毎回海外から来日されている方に講師を頼んで参加者に異文化や違った風習などを話して貰い国際的な常識や知識を身に付けてきました。第39回までの開催回数となっております。



##### ・第1回国際交流サロン

当法人設立の年2006年11月に開催されています。当時の案内状を見ますと、発足当時の意気込みが伝わってきます。会場は大阪ボランティア協会（北区老人福祉センター3階）で「ネパールの高齢者福祉の現状」についてネパールから来られたニルマラ・ウプレティさんに講演頂きました。終了後はチャイパーティーで参加者との交流を致しました。

・第2回から第39回まで全ての事は書ききれませんが、それぞれの回の第1部では講演、第2部では留学生との交流を基本パターンにしております。第1部の「講演のテーマ」の主なものは以下の通りです。在日外国人の母国の文化や風習を聞いたり、海外体験の豊富な方の話を聞く事は、来場者にとって興味深いものであります。

「小泉八雲の生い立ち、人生」「留学生との交流授業」「世界自転車旅行」「素晴らしきインド」「ネパールでのボランティア活動」「英語落語」「ゲーテに学ぶ」「アフリカと私達」「コートジボアールから日本留学へ」「アルゼンチンを知ろう」「なぜ英語が上手く話せないか」「スザンカさんが語る異文化体験」「言葉の懸け橋を目指して」「つながりは笑顔の挨拶から」「フランスの魅力を語る」「イタリアの日常生活について」「ジャスミンの国チュニジア」「日本の文化・中国の文化」「トルコ文化とトルコビュッフェ」「ペルーの魅力と抱える問題」「回教圏でのプロジェクトから学ぶ」



##### ●USJ パフォーマーと子ども達との交流会

港区の子ども達と、海外から来ているUSJパフォーマー達との交流をUSJのご厚意で実施する事が出来ました。子ども達に海外を身近なものと感じてもらえ、又パフォーマーの方々と外国語と片言の日本語での交流でしたが、楽しいひと時を過ごせました。

##### ●子ども英語教室（2015,16年に開催）

子ども達にネイティブな英語を聞いてもらい、グローバル社会で通用する人材育成を子ども時代からとの目的で進めました。

##### ●留学生交流会（コロナ禍で現在休止中）

大阪日本語教育センターに留学中の希望者と日本側5人～7人の5グループがリアルな交流会をグループ毎に民族博物館や今昔館に行ったり趣向を凝らした活動をしています。

##### ●大阪大学留学生ホストファミリープログラム（コロナ禍で現在休止中）

大阪大学に短期留学や国費留学している学生さんのホストファミリープログラムを実施しています。個々の交流が中心ですが、半年に2,3回参加者全員での交流会イベントを開催しています。



●-5 留学生就活支援活動（独立して現在活動中）

国際文化交流科 5 期の修了生が中心となり活動を開始し現在も活動中。

●-6 ミャンマー日本語学校交流プログラム（コロナ禍の中、スタートした活動）

大阪日本語教育センターの卒業生が創設したヤンゴンの日本語学校の生徒さんと毎週金曜日にズームオンライン交流会を実施しています。ミャンマーの若者達の夢を聞き、日本のシニアが彼らの夢の実現に少しでも役に立てればと思って活動しています。来年度はオンラインスピーチ大会を計画しています。



⑤NPO おもちゃ学校—指導者養成講座（大阪校）開校（令和2年9月15日）

広報部 大川 正彦

◆開講式 運営スタッフ村松さんの司会で長澤校長挨拶、来賓高大「子ども事業部」音田事業部長より受講生に激励の祝辞を戴いたのち、スタッフの自己紹介、受講生の自己紹介続き、本日の授業に入る。（NPO法人・SA子ども活動塾とコラボ企画）次ページ4月からのスタート予定が9月になったが3密対策で無事スタート出来た。

- ・午前中クラフト工作、午後科学工作実習。
- ・途中班別写真撮影を行い班別レイアウトで実習。
- ・実習後クラスミーティング 15:00～16:00
- ・受講生の多くがおもちゃづくりの経験が有り、指導者養成講座の成功期待がかかる。

◆実施内容

- ・実施日時・・・令和2年9月15日（火）10時00分～16時00分
- ・実施場所・・・教育会館6階11号室
- ・参加者・・・27名（3名欠席）他（講師スタッフ6名 運営スタッフ2名）
- ・内容・・・別紙カリキュラム



長澤校長挨拶



開校式



音田事業部長挨拶



スタッフ紹介



クラフト作品「万華鏡」



科学工作「ロボット」

## 関連団体の声①

### ◆広報部 関連団体

大川 正彦

#### ①大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会（新鞍理事長）

「大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会」は大阪府下 19 の拠点を持つ連合団体でシルバーアドバイザー・ネット大阪の設立当初からのパートナーです。新鞍理事長（当法人監査役）監事としてアドバイスを頂いている、また同連協会員皆様から、行事支援、おもちゃ教室支援も頂いています。SA 連協会員様と共に連携を図り事業に当たりたいと思います。支援内容＝国際交流講演依頼・講演、講座講師を紹介・会員紹介等。

②NPO法人・SA子ども活動塾（小川理事長）と 2019 年 7 月から企画検討 2020 年 4 月に「子ども健全育成指導講座おもちゃ学校（大阪校）」開講。残念ながらコロナ禍で同年 9 月に延期。支援内容＝年間講師・アシストスタッフ・教材・立ち上げ経費支援等

### ◆伝承おもちゃづくり事業部

#### ①「おもちゃづくり教室」

SA 藤井寺 千種 長子

私は、平成 19 年「SA19 期修了」後、「おもちゃづくり部会」に参加しましたが、途中で「おもちゃづくり教室」に名称が変わりました。

この「教室」は、単なる趣味だけではなく、今まで培って来られた貴重な体験や技術を基にそれぞれの地域のイベント、子育て支援、施設訪問等のボランティア活動に役立させている「おもちゃ」を持ち寄り技術と情報を共有している人たちで構成されていました。

「おもちゃづくり教室」では、それらの技術と情報を惜しむことなく参加者に披露し、教え、参加者の技術向上に役立てられ、また、地域で作った作品も提供し、交流も盛んで全員が楽しく過ごせる時間でした。

15 年経った今、お互いに高齢化は進み、後継者が育ってないことを憂慮しています。

この活動に賛同して各地域の人たちが気軽に参加してもらえるように働きかけてほしいし、私たちも協力していきたいと思っています。

#### ②四天王寺 わっか市

わっか市実行委員長

森 川 弘 子

創立 15 周年おめでとうございます。

四天王寺さんの「わっか市」は、2012 年（平成 24 年）4 月より始まりました。毎月第 1 日曜日、9 時から 15 時まで開かれています。ちょっと前の日本の暮らしをテーマとし、人間の五感を大事に、人や環境に優しい品物を扱う「市」です。（無農薬、減農薬の野菜、無添加の食品、天然素材の洋服や小物、オリジナルの手作り品等）。一つとして同じ物がない「一期一会」を大事にしています。

わっか市とは、色々な『わ』を大事にしたい思いが込められています。会話、平和、和み、輪廻、我、などなど。それよりも四天王寺の開祖、聖徳太子の『和を以て貴しとなす』というお言葉が、無意識のうちに名付けに関わったのかも知れません。

そのわっか市へ「おもちゃづくりグループ」がファミリー層を引き寄せてくれました。四天王寺さんからのご紹介で、最初はどのようなものか分かりませんでした。毎回趣向を凝らして小さなお子様から年配の方々までが楽しめる工作。自主性を育て達成感を味わ

える幸せ。そんな心地良さからおもちゃづくりを目的に訪れる方も多くいらっしゃいます。年々人間の繋がりが希薄になる昨今、わか市に來れば温かい触れ合いが出來、真の豊かな暮らしを見つめ直すきっかけを、投げかけているのでは無いかと自負しています。おもちゃづくりの皆さんとは、いつまでも繋がりを保ちたいと願っています。改めておめでとうございませう。



### ③大阪区民カレッジ講座

#### 大阪区民カレッジ天王寺校

DR 小山 健二・DR 飯沼 三津子

「シルバーアドバイザー・ネット大阪」設立 15 周年、おめでとうございませう。

大阪区民カレッジ天王寺校では、「手作りおもちゃ制作体験」の授業に、2 つの目的を掲げております。

まず、受講生が制作体験で達成感を以て楽しむこと。次は子どもたちと同じ目線で楽しく教えられること。どちらも大変難しい目標で、簡単なおもちゃでは達成感が得にくいかもしれませんし、複雑なおもちゃでは時間内の制作が大変です。

そこで SA ネット大阪の方から、身近な材料を使って手作りするノウハウと下準備の労力をお借りしての授業を行い、出来上ったおもちゃで遊ぶと、受講生の皆さんにはいつも童心に帰ったような満足げな笑顔が溢れます。

今、コロナ禍で子どもたちとの交流の機会を持てませんが、またその日のために、これからも当校の講座にご協力いただければ有難く存じます。「SA ネット大阪」の皆様のご活動に敬意を表し、今後の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 関連団体の声②

### ◆おもしろ算数教室事業部

#### ①柏原市「物忘れ予防サロン」

平尾 榮子

平成 21 年 4 月から毎月 1 回、計 75 回実施しました。当初の参加者は 20 人前後でした。解けない時にはパット手を挙げ、パズルを必死に、楽しそうに解く姿がありました。また、継続しての参加者は新タイプのパズルにも、直ぐに解き始めますが、新参の方は戸惑っている事から、パズルを解くことにより、脳が活性化されていると考えられます。

この活動が、柏原市の広報のみならず、口コミで広がり人気が出て、参加者数が 50 人を超えるようになり、広い会場に変更して実施となりました。

元気で百歳を超えるために、算数パズルで脳の活性化トレーニングをし、手品で参加者一同ビックリして、とても楽しい時間でした。

なお、この教室を含めた「介護予防サポーターズ」の活動が令和 2 年度の厚生労働大臣表彰を受けました。



## ②府民カレッジひらかた校

鈴木 紀男

「おもしろ算数教室」は平成29年4月の開校よりシルバーアドバイザー・ネット大阪の二葉講師にお願いし、本年もカリキュラムに構築いたしました。受講生には大変好評で、お持ちいただく資料も孫のためと購入者が多いようです。

私の「おもしろ算数教室」との出会いは平成23年、当時のNPO 法人大阪府高齢者大学校伝承玩具工芸科（この科目は4年目に他の科目と併合）の受講生時、初めて二葉講師の講義を受けました。算数にゲーム感覚でこんな面白い勉強の仕方があるのを教えられました。機会があれば皆さんに周知してもらえればと感じていましたが、高大事務局に入りその機会はなかなかなく、府民カレッジ「ひらかた校」を立ち上げるにあたり、カリキュラムに挿入することが出来ました。京阪沿線でこの「おもしろ算数教室」が広まることを期待いたします。

## ◆交際交流事業部

・大阪日本語教育センター教務主幹 磯田郁子

この度は創立15周年誠にありがとうございます。心よりお祝いを申し上げます。私ども日本学生支援機構大阪日本語教育センターはSA ネット大阪の皆様  
長きにわたり多大なご支援とご協力をいただいています。

皆様の国際交流への熱い思い、日本に来て心細いであろう留学生に何かしてあげたいというお一人お一人の支援のお気持ちをひしひしと感じております。

昨年度からはホストファミリープログラムも立ち上げていただき、グループで学生たちを支援していただいています。学生たちは日本でお父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんができたと喜んでおります。さまざまな日本の文化や習慣を留学生に紹介していただき、日本人の心や日本のよさをたくさん教えていただいています。

これからも末永く活動され、留学生のよき理解者として支えていただけましたらと願っております。





## 会員かわら版

(会員の声)

### NPO 法人設立に参加して

西川 龍夫

私は、SA14期(2002年3月卒)「国際交流」の修了生です。

SA・ネット大阪の設立時には広報部の担当となり、法人で必要とするホームページの立上げのため箕面市の田端稔夫様に講師をお願いして、HP勉強会を数回実施(参加者:大川正彦さん、矢原朗子さん、西川)して、当時のHP定番の難解なIBMソフトを矢原さんの猛勉強で、大阪府主催「NPOアクティブ祭り」のOMM会場で、披露アップが出来まして法人のPR活動が開始できました。

又、設立時には、小生は「大阪府立介護・情報研修センター」での「福祉用具説明員」としての委託業務にも参加しました。その内容はセンター内の展示品(電動ベッド、車いす、歩行器、杖、ポータブルトイレ、シャワーチェア、移動用リフト類、手すり、食事関連商品等々)の個人・団体来館者への説明業務です。(現在は、府の財政改革の一環で残念ながら閉鎖されています)

SAネット大阪での経験より、「NPO大阪府高齢者大学校」と「NPO大阪アクティブシニア協会」の設立時にもHP及び立上げの諸行務で参加させていただきました。

### SA ネット大阪 15 周年記念誌

奥谷 英夫

国際交流活動は平成12年1月に千里ロータリークラブ入会し、2000年(平成12年)から地区で学ぶ国費留学生を主に奨学金を給付する委員を担当し、同時期に他クラブで委員を担当していた磯田先生(大阪日本語教育センターで教務主任を担当)の協力を得て、英語が話せなくても留学生との交流ができることを学びました。2006年(平成18年)に相前後して、北千里公民館で「やさしい日本語教室」を立ち上げ、南千里の留学生会館では「千里国際友好会」の活動リーダーとして成績優秀な国費留学生との交流を始め2007年(平成19年11月)には吹田小学校の5年生との交流授業を開始しました。今年はコロナ禍で留学生が7人しか留学せず交流授業は3校にとどまりましたが14年継続して活動を継続しています。

こうした過去の活動を振り返りますと、SAネット大阪での活動が日本語教育センターでの国際交流活動だけで終了したことを残念に感じています。

会員の皆さん英語が理解できなくてもぜひ参加をして国際交流活動を楽しんで下さい。

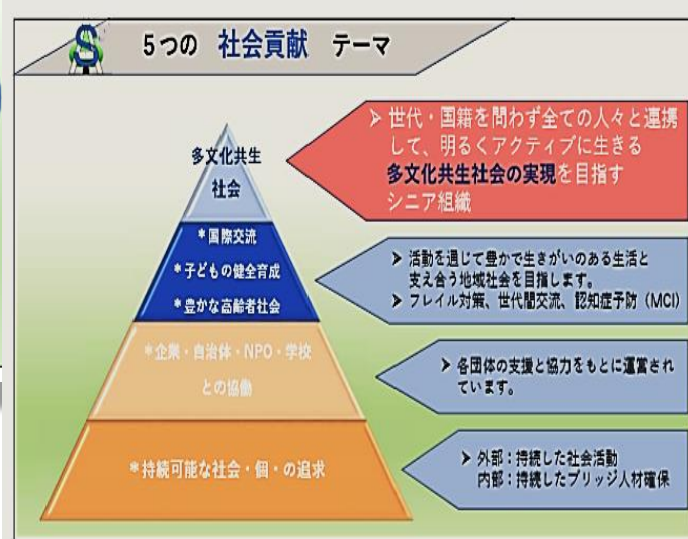
### SA・ネット大阪「15周年記念特集号」発行に期待して

田中 暁子

この度の15周年記念特集号発行、おめでとうございます。完成を楽しみに待ちます。

私が「SA・ネット大阪設立委員会」に初めて出席した時のメンバーの女性は二葉さんお一人でした。3事業部制での発足となり、二葉さんを中心に「おもしろ算数教室事業部」が開設され、先ずこの事業部運営の母体である「算数パズル」のエキスパート養成のための「おもしろ算数教室」が開講されました。私は数学が苦手でしたが何とんでもこの事業部を成功させたいとの思いがあり「おもしろ算数教室1期」から受講し、初級中級上級+サポーターの資格を取得しました。教室からの帰途・帰宅後、私はパズルの解答に夢中になりました。この体験を「高大」で話したこともありました。このように私を夢中にさせてくれた事業部が、今後共「楽しく夢を運ぶ活動」として続けられますことを期待致しま

## NPO SA ネット大阪の目指す姿



### 編集後記

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会から独立、立ち上げてから15年経過「温故知新」テーマに15周年記念誌を（ネット大阪ニュース37号特集号）として纏めて見ました。

編集にあたり・歴代理事長の想い、歩み・SA ネット大阪の沿革、4事業部の沿革、を通し歴史を再認識しました。

また、関連団体、施設からの感謝の声、励ましの声に元気を貰いSA ネット大阪のめざす姿多文化共生社会5つの社会貢献を関連団体との連携のもとに、目指して参ります。

最後に15周年記念誌発行に際し祝辞を賜りました、高齢者大学校・区民府民力レッシュ・大阪府SA連協各理事長様には重ねて御礼申し上げます。

—記念誌編集委員—

大川正彦・武内信憲・村松秀明

発行日：2021年2月吉日

発行人：NPO：シルバーアドバイザー・ネット大阪

連絡先：大阪市中央区法円坂1-1-35 大阪市教育会館  
(アネックスパル法円坂)内認定NPO 法人大阪府高齢者大学校内

TEL：06-6360-4565・FAX:06-6360-4410

URL：<https://sanetosaka.com/>

—特別寄稿募集について—

「手洗いにも水が使えますように」

インドでビハール州は最貧の州です。ビハール州の農村には飲料水を遠くの井戸から運んでいる家庭が沢山あります。近くに井戸があれば手を洗ったりするにも水が使えて感染症も防ぐことができます。ウォーターポンプ設置の特別寄付を募集中です。今年になって2基を設置いたしました。まだまだ必要です。引き続き募集をさせていただきます

- ・一基 8万円 ウォーターポンプ特別ドネーション 一口 1万円  
(芳名プレートを大理石に刻ませて頂きます)。
- ・寄付金振込先 三井住友銀行 大阪西支店 支店NO443
- ・口座番号 7028984 特定非営利活動法人ニランジャナセワサンガ



- ・水汲みに沢山の時間がかかります

NPO 法人 ニランジャナセワサンガ <インド最貧困地域の子ども達を支援する NPO >  
〒541-0055 大阪市中央区船場中央 1-3-2-302 大阪市コミュニティ協会内  
<http://www.sewasanga.jp/>

下記の症状でお困りの方、老化せいとあきらめないで！

- ・合う靴がない ・足や膝の痛みが改善しない ・体が揺れてふらつく
- ・前屈みでよくつまずく ・ペタペタ足音が鳴る ・疲れて長時間歩けない



痛みと変形の悪循環

「悪い歩き方」が大きな原因です！



※ご相談ください！ 症状により健康保険適用で「靴やインソール」が製作可能です。



foomarks フットマークス

〒547-0027 大阪市平野区喜連 4-17-12  
06-6700-1192  
営業時間：10:00～18:00  
定休日：毎水曜日、第1・3日曜日  
<https://www.footmarks.jp>

